

8-3-7 持続可能な社会構築検討WG

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

委員会開催回数:9回

(企画委員会と同一日に開催)

(2) 委員会の活動経緯

前年度(2020年度)は協会会員各社がSDGsに取り組む動機付けとなるよう、SDGs経営の重要性を白書で発信した。

本WG発足3年目となった2021年度は、前年度白書のメッセージを踏まえ、業界内外に発信できる“SDGsに関する提言”の検討を主に行い、その検討成果をR4年度建設コンサルタント白書にとりまとめた。

(3) 委員会の活動内容

a) 提言の対象(ターゲット)の検討

SDGsに関する提言では、業界内外に発信することを想定し、発信する対象として5つのターゲットを設定した。その上でそれぞれのターゲットに対し、発信したいメッセージの主旨について検討を行った。5つの対象とメッセージの主旨は以下の通り。

- ・ 一般、学生向け;建設コンサルタントの役割
- ・ 投資家向け;建設コンサルタントの事業活動とSDGsの親和性
- ・ 会員企業向け;ESG投資の急増、ESG指標とSDGsの関連、SDGs経営の重要性
- ・ 異業種向け;様々なステークホルダーとの協働、ビジネスマッチング
- ・ 世界に向けて;海外における高品質なインフラ整備

b) SDGsに取り組む意義の検討

建設コンサルタントは、自社の事業と親和性の高い社会課題の解決に取り組み、共通言語としてSDGsを掲げることで、様々なステークホルダーとのマッチングが生まれ、新たな市場や事業領域が展開されるビジネスチャンスが広がる。またイノベーションや技術開

発の促進、ブランド力強化に繋がるなど、SDGsに取り組む意義について検討した。

c) SDGsの目標と建設コンサルタント事業

地域のあらゆる課題解決に取り組む建設コンサルタントは、気候変動や自然災害に対して強靱で持続可能なまちづくりを考え、グリーンインフラ、カーボンニュートラルといった長期的でグローバルな課題解決にも取り組み、持続可能な社会の実現に貢献している。このように建設コンサルタントの事業活動はSDGsそのものであると捉え、SDGs17ゴールに対する建設コンサルタントの取り組み事例をとりまとめた。

d) 様々なステークホルダーとの連携事例

従来の建設コンサルタントの事業の枠組みを超え、官・学、NPO法人、異業種企業など、幅広いステークホルダーとの連携による社会課題解決への取り組みが始まっている。WGでは企画委員会委員の協力により、建設コンサルタントと異業種との連携事例を収集し整理した。

e) 建設コンサルタント白書での発信

ESG投資が急増するなか、SDGsへの取り組みを建設コンサルタントのビジネスの切り口と捉え、SDGsを長期経営ビジョンに反映し、持続可能な企業経営を目指すことが重要であることを、令和4年度建設コンサルタント白書において発信した。

2. 次年度の活動について

本年度に継続して、以下の活動を進める。

- (1) 協会会員各社の支援となるような、SDGs経営に関する提言、リーフレットの作成
- (2) 外部プラットフォームの実態調査、プラットフォームへの登録検討

(持続可能な社会構築検討WG

WG長 山本 誠二)